

# 畑地性カラー再利用球根のMA包装による長期貯蔵技術

福島県農業総合センター 会津地域研究所

部門名 花き-カラー-その他

担当者 大竹真紀・星佳織・堀越紀夫

## I 新技術の解説

### 1 要旨

畑地性カラーの切り下球根を秋切り栽培に利用する場合は、球根を掘りあげてから翌年7月に定植するまで約半年間にわたり球根を貯蔵する必要があるが、貯蔵中の球根の重量減少が大きく期待する収量が得られていない現状がある。MA包装資材を用いて球根を梱包することにより、貯蔵中の球根重量が維持され、収量が向上する。

- (1) MA包装すると、7ヶ月間冷蔵貯蔵しても球根重量の減少はわずかである(図1)。
- (2) MA包装した球根は、定植直前に芽が伸長を始め(写真1)、定植後の生育が良好となる。
- (3) 球根の前歴が前年5月定植の充実した球根と前年7月定植し秋切り栽培した球根のいずれであっても、MA包装することで採花本数が増加する(図2)。

### 2 期待される効果

- (1) 切り下球根を再利用した秋切り栽培において、収量が増加する。

### 3 適用範囲

畑地性カラー生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) MA包装資材(P-プラスVY915)に1袋当たりカラー球根50球(約4.5~6kg)を入れて口を密封し、コンテナに入れて7℃前後の冷蔵庫内で貯蔵する。10a当たりの資材費は、8000球定植するとして1万円程度である。
- (2) MA包装資材の機能的特徴は、フィルムの微細な穴でガス透過量を制御して低酸素・高二酸化炭素の状態とし呼吸を抑制することにある。包装内の湿度が高く保たれることによって、結露により梱包内に水滴が溜まることがあるが、これによる球根の腐敗はみられない。
- (3) 試験では品種に「クリスタルブラッシュ」を用い、猪苗代町で栽培した。定植前にジベレリン50ppm球根浸漬処理を行った。

## II 具体的データ等

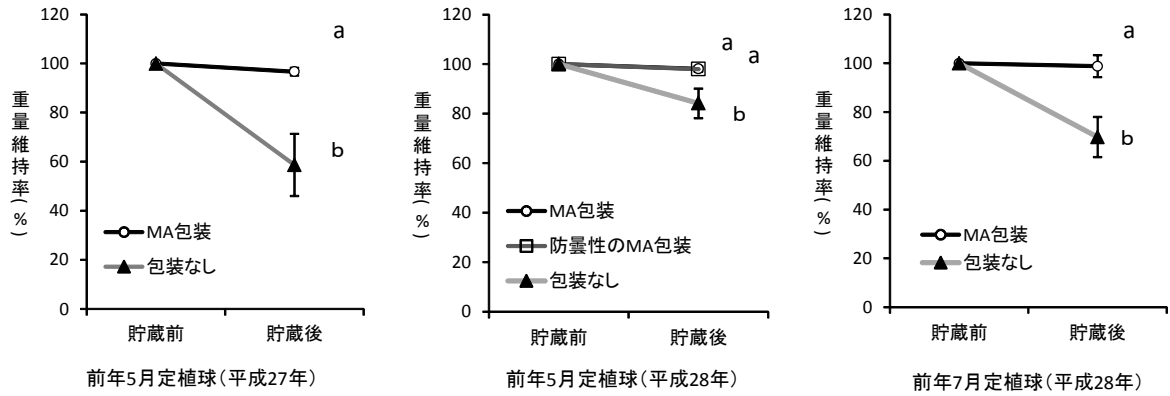


図1 MA包装によるカラー球根の重量変化

品種:「クリスタルブラッシュ」

貯蔵期間:平成27年は、7ヶ月(平成26年12月26日~27年7月16日)、平成28年は5ヶ月(平成28年2月3、4日~7月19日)

重量維持率:貯蔵後の重量/貯蔵前の重量×100

エラーバーは標準偏差 n=50 t検定、分散分析により、異符号間に1%水準で有意差あり



写真1 貯蔵後の球根の状態(平成28年、左:防曇性のMA包装、右:なし)

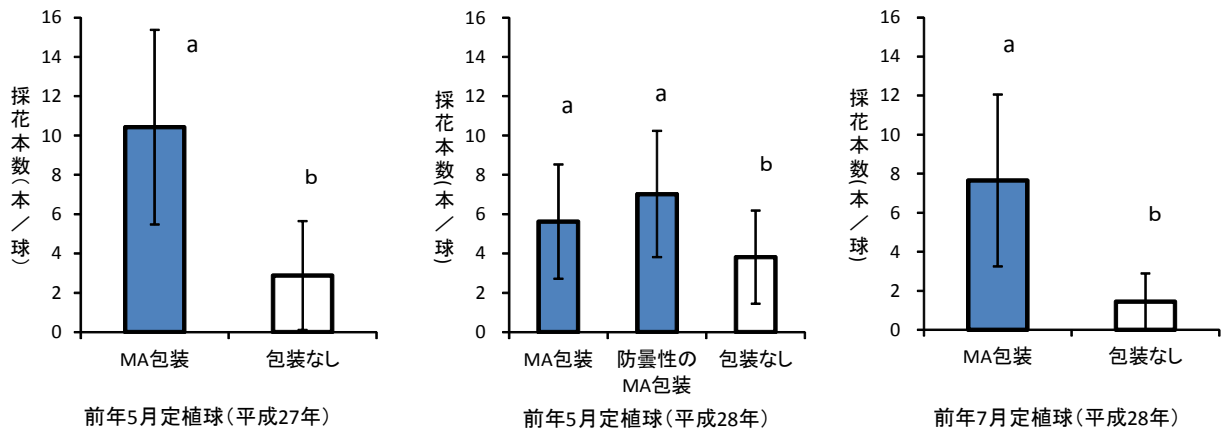


図2 カラー球根のMA包装と採花本数

品種:「クリスタルブラッシュ」

貯蔵期間:平成27年は、7ヶ月(平成26年12月26日~27年7月16日)、平成28年は5ヶ月(平成28年2月3、4日~7月19日)

エラーバーは標準偏差 n=45 t検定、分散分析により、異符号間に1%水準で有意差あり

## III

### その他

#### 1 執筆者

大竹真紀

#### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成27年度~28年度

(2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立  
(畑地性カラーの多収栽培技術の確立)

#### 3 主な参考文献・資料 なし